

週刊 **タバコの正体**

現在、成人の喫煙率は男女合わせて約20%です。つまり多くの大人はタバコを吸いません。そんな現状もあって、下表に示すように多くの職場は建物内禁煙や敷地内禁煙となっていて、少なくとも決められた喫煙場所でしかタバコを吸えない分煙状態となっているのが普通だと思われます。

職場の喫煙環境調査 「あなたの職場での喫煙環境を教えてください」に対する結果

屋内・屋外に関わらず、勤務中は全面禁煙	1,918人	23.9%
建物内(車などの閉鎖空間も含め)全体を禁煙としている (屋外での喫煙のみ許されている)	2,228人	27.9%
建物内に喫煙室を設け、煙が漏れないようにしている	1,710人	21.4%
建物内に喫煙場所はあるが、煙が漏れないようにしていない	891人	11.1%
建物内どこでも自由に喫煙ができる	659人	8.2%
全体		8,000人

ジョンソン・エンド・ジョンソンコンシューマーカンパニー「受動喫煙防止および屋内禁煙に関する意識調査」2014年6月発表

そんな中つい最近、下のような記事が発表されました。建物内や敷地内だけではなく、「勤務時間中、全面禁煙」とした会社のニュースです。「勤務時間中禁煙」なので、出張や外出中も喫煙を禁止するというものです。

勤務時間中は全面禁煙＝出張や外出先でもーリコー

時事通信 1月7日(水)21時0分配信

事務機大手のリコーは7日、国内のグループ会社で勤務時間中、全面禁煙にしたと発表した。定時の就業中であれば社内だけでなく出張や外出先でも禁止する。他人のたばこの煙を吸う受動喫煙を防ぎ、社員の健康に配慮するため。

本社や工場など国内全ての事業所で勤務する正社員約3万7000人に加え、契約社員やパートタイマーも対象。これまであった喫煙所を敷地内から撤廃した。禁煙支援のため、同社は補助薬の購入や治療に必要な費用を半額補助する制度を設けている。

職場以外に出張や外出先でも社員に禁煙を求める会社は数少ないという。半導体製造のロームが1998年から同様の規則を定めている。

しかも、この記事をよく読むと、「勤務時間中禁煙」を今から17年前から実施している会社があることがわかります。

このような企業は、まだほんの少しだろうと思われませんが、タバコを吸わない人がどんどん増えていけば、いずれ「勤務時間中禁煙」は普通になるでしょう。だって、君たちのように、タバコを吸わない若者がこのままどんどん増えていけば、そうなる事が予想されますからね。

産業デザイン科 奥田 恭久